



◆ 中核生徒育成について

本校学校改革(耐久 Rebirth)の柱に、耐久高校に誇りと自信を持ち、学校を支え、リードする気概を持った生徒(中核生徒)を育てることを掲げています。その取組のひとつとして、部活動員や生徒会役員による、「早朝校内清掃活動・挨拶運動」を10月から行っています。毎週月曜日(休日の場合は翌日)実施で、生徒の元気な声が一週間の始まりを引き締めています。

◆ ロングハイキングについて



10日(金)・11日(土)は、35回目となるロングハイキング(2年生)が行われました。この学校行事は昭和55年から続く、耐久スピリッツを継承する伝統行事です。初日には、世界遺産の高野山でのフィールドワークの後、夜は宿坊での「クラス交流会」で団結を深めました。明朝、5時半に起床、朝食後、宿坊を7時に出発し、高野山山門から花園温泉を経由し、有田川町の久野原までの32.8kmの道のりを、最速の生徒は4時間程で踏破しました。

天候に恵まれ、自然豊かな山林を歩く、ロングハイキングには絶好の日和となりました。このロングハイキングには、校長先生も参加し、見事、完歩されました。地域や保護者の方々のご協力のお陰で、この行事をスムーズに運営できたことに感謝いたします。



◆ 「稲むらの火まつり」のボランティア活動について

18日(土)夕刻、広川町において「稲むらの火祭り」が行われました。この催しは、1854年の安政南海地震の際、沿岸に津波が押し寄せたのを察知した濱口梧陵が稲むらに火をつけて危険を知らせ、村人たちの命を救ったという逸話を伝承するため、広川町役場前から広村堤防等の町中を通り、松明に火をともし広八幡神社まで歩くものです。平成14年から毎年実施されていて、本校軟式野球部員(6名)が運営ボランティアとして参加し、ゴール地点の広八幡神社で参加者に振る舞われる「稲むらうどん」の境内整理にあたりました。混雑した境内の大人に混ざった子供たちの安全確保等が目的で、共助の精神を実感する機会となりました。



◆ 人権学習講演会について



20日(月)、全校一斉の人権学習講演会が開催されました。今年は、大阪家庭裁判所調査官 松下礼子さん(本校卒業生)を講師としてお招きし、「家庭裁判所調査官が会う人達を通じての、少年事件、家庭問題等、今日の社会的な問題や人権問題」についてご講演いただきました。家庭裁判所調査官という日ごろ馴染みがない仕事について、具体的にご紹介いただき、進路や職業理解の面でも視野が広がった講演会となりました。

◆ センター試験受験生への激励会について

21日(火)、大学入試センター試験出願者へのガイダンスに先だって、校長先生から激励のメッセージをいただきました。受験生の手元には、校長先生が作ってくださった「本校の先輩たちがこの時期からどれだけ伸びたかを示すグラフ」があり、最初はうつむいて聞いていた生徒たちも徐々にグラフを見つめ、次第に顔を上げて熱心に聞き入りました。最後まであきらめない「自分がもう限界と感じて設定する限界は、本当の限界よりはるかに低い」というお話に勇気づけられた様子でした。11月より授業でも、センター試験対策の取り組みが本格化します。ここから伸びる耐久生を大いに発揮してもらいたいものです。

◆ 授業力向上の研究授業より

今年度から、全ての教員の授業力を向上させる目的で、公開・研究授業に取り組んでいます。今月は全教科で20の研究授業が行われました。

その中で、山崎太幹先生による、23日(木)2限の1-1コミュニケーション英語Iを紹介します。この授業では「ペアワーク」を取り入れ、暗唱していくものです。先生のテンポのいい指導のもと、二人ペアになってインテイクリーディング(生徒が的確に暗唱を声を出してこなしていく様)は、テンポよく、相手の暗唱のスピードに合わせて息が合っていて、動きがある見応えのある授業でした。

